

小値賀地区小中高一貫教育概要

【小値賀町の特色】

- ・教育に対して協力的な地域風土
- ・素直な子どもたち
- ・豊かな自然環境
- ・健全育成を支える人的環境



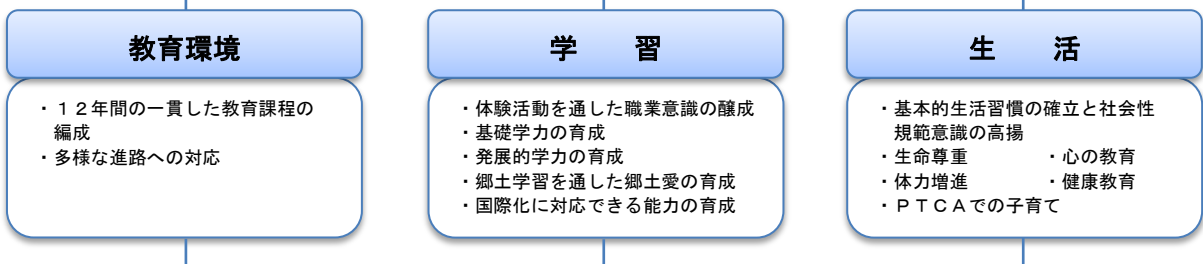
天然記念物
ポットホール



【小値賀町の課題】

- ・過疎化少子化による児童生徒数の減少
- ・学校規模の縮小に伴う職員数の減少

小中高一貫教育全体目標
一人ひとりの夢の実現

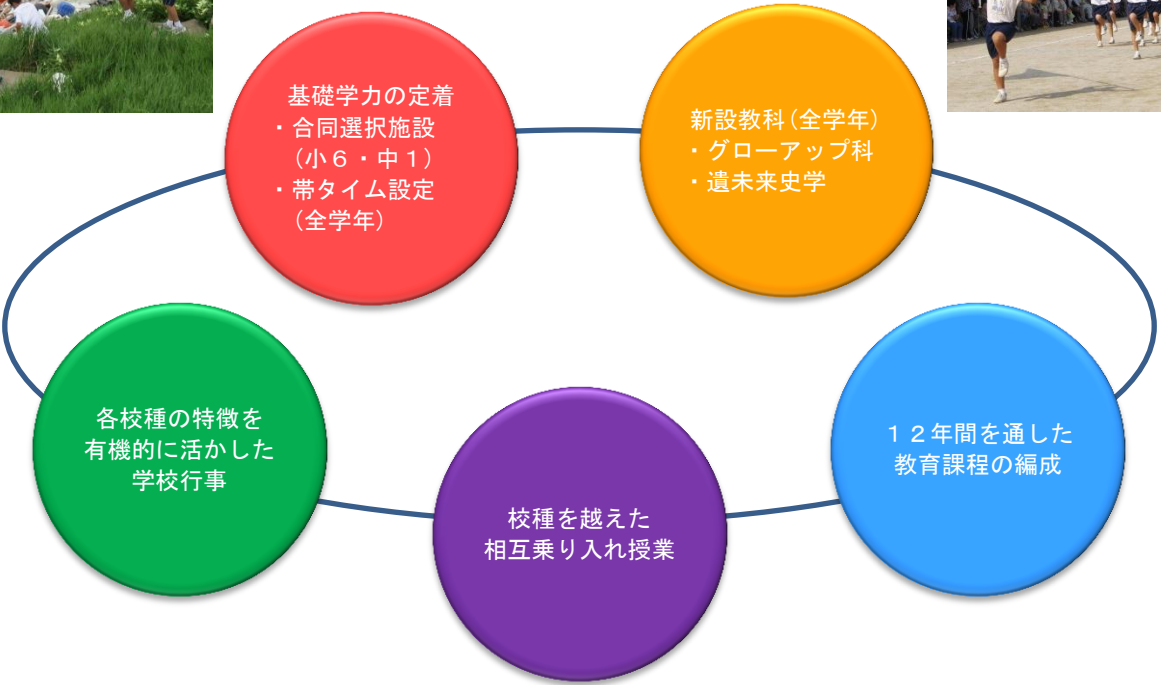


小中高合同
海浜清掃
(小1～高3)



中高合同
体育大会
(幼保・小も参加)

20年度開始の
具体的取組



小値賀小学校・小値賀中学校



小値賀小学校大島分校



北松西高等学校



<小中高一貫教育のねらい>

【研究主題】

「過疎化・少子化に伴い学校規模が年々縮小する離島において、それぞれの学校が有する教育力を可能な範囲で融合させ、教育水準の向上を図り、多様な進路希望を持つ子ども達の夢の実現が図れる教育環境を、12年間の一貫した流れの中で構築する。」

【主題設定の理由】

本地区の小中高一貫教育の目的は、

- ① 童生徒数の減少に伴う教職員定数の減によって生じる専門性の確保という課題をいかに克服するか。
- ② 童生徒の学力を向上させ、社会性を育成し、進路をいかに保障するか。
の2点であり、本年度は本格実施5年目である。

本地区の小中高一貫教育では、可能な範囲で12年間の教育課程に一貫性を持たせるため、児童生徒の実態や発達の段階を踏まえ、小学校から高等学校までの12年間を、前期4年（小1～4学年）・中期3年（小5～中1学年）・後期5年（中2～高3学年）の3つのまとまりで編成している。また、たとえば小学校においては、中・高等学校からの乗り入れ授業によって、より専門的で分かりやすい授業を実施し、小学校第6学年と中学校第1学年の合同による教科（合同教科…国語、算数・数学）を設定し、全学年一斉での「帯タイム」によって、基礎・基本の確実な定着を図っている。さらに、12年間全体を見通して、郷土学習から国際化・情報化に対応し、主体的に生きるスキルとしての技能を習得させる「遣未来使学」、心の内面に根ざし道徳教育を主軸とした人間としての在り方、社会人としての生き方を追求する、生き方教育としての「グローアップ科」を設けている。（※高校においては、「ホームルーム活動」と「総合的な学習の時間」での指導内容を「グローアップ科」及び「遣未来使学」に充当）中学校及び高等学校においても同様の取組を行っている。

また一方で、学校及び地域においては、児童生徒の人間関係は限られており、12年間の学校教育の中で切磋琢磨の機会も少ない。したがって、人間交流の乏しさ、リーダー性の育ちにくさ、競争心の欠如等の課題解決に向け、本地区では、次の点を目指して小中高一貫教育を実施している。

- ① 小学校、中学校、高等学校という校種の違いから生ずる子どもたちの心理的負担を軽減し、ゆとりある安定した生活を送ることができる学校
- ② 12年間を見通して、子どもの多様な資質及び能力を伸ばす系統的・継続的な学習環境、心の教育、生活指導と関連付けた生き方指導を展開することができる学校
- ③ 異年齢集団による活動及び社会と関わる活動を通して、豊かな社会性及び人間性を育てることができる学校